

<実践報告>

「信大茂菅ふるさと農場」における  
「生活科指導法基礎」の授業づくり

土井 進 信州大学教育学部教育科学講座

The Significance of the “Shinshu University’s Mosuge Home Farm” in the  
“Basic Teaching Method of the Socio-Environmental Studies” Class

DOI Susumu: Educational Science, Faculty of Education, Shinshu University

研究の目的	「生活科指導法基礎」の教材としての「信大茂菅ふるさと農場」の意義について考察することを研究目的としている。
キーワード	生活科指導法基礎 信大茂菅ふるさと農場 気づきの質 活動・体験
実践の目的	「信大茂菅ふるさと農場」における様々な活動や体験を通して、学生が生活科の9つの内容項目について、どのような学びを習得しているのかを明らかにすることを目的としている。
実践者名	土井進
対象者	「生活科指導法基礎A」70名, 「生活科指導法基礎B」70名
実践期間	2010年4月～2010年7月
実践研究の方法と経過	授業計画(シラバス)を作成し、それに準拠しながら農作業体験の実践と生活科の視点からの考察を行った。生活科の視点を得るために教科書として『小学校学習指導要領解説 生活編』平成20年8月(文部科学省)を熟読することにした。また、穴あき問題をA4版で11枚作成して、学生の課題とした。各班ごとに決めて栽培した夏野菜は二十日大根・トウモロコシ・スイカ・かぼちゃ・トマト・キュウリ・ナス・枝豆等であったが、いずれも順調に生育し、無事に味わいあい喜びを共にすることができた。
実践から得られた知見・提言	生活科の学習は、「具体的な活動や体験を通し」て、自立への基礎を養うことを目指している。確かに茂菅での具体的な活動や体験を通して、学生自身が「生きる力」を身に付け、学習上・生活上・精神上的の自立を果たしながら、毎回新しく成長している姿を感じ取ることができた。11年目を迎えた「信大茂菅ふるさと農場」は、着実に、そして、堅実に未来の教員養成に大きく貢献していることを確信している。 学生は農作業体験を非常に楽しみにしており、農場に駆けつけるや否や、いち早く自分たちの作物の畝へ出かけ、言葉と愛情と水をかけている姿がみられる。まさに「土づくり」は「人づくり」である。

## 1. はじめに

本稿は、月曜5限の「生活科指導法基礎A」と木曜日5限の「生活科指導法基礎B」の受講生合計140名が、「信大茂菅ふるさと農場」における様々な活動や体験を通して、生活科の9つの内容項目についてどのような「気付き」を得ているのかを、小論文の内容を分析することによって明らかにし、今後の授業改善に資することを目的としている。

## 2. 「生活科指導法基礎A」の授業計画（シラバス）

### (1) 授業のねらい

長野市茂菅地区に開設した「信大茂菅ふるさと農場」（11年目）までの往復の道のり（約2キロメートル）において、地域社会の人々とのふれあいを体験する。又、米づくり、じゃがいも、さつまいも、トウモロコシ、西瓜、枝豆、トマト、ブロッコリー、二十日大根などの栽培作業に取り組むことによって、食物を生産することの大変さを実感し、食育の重要性に気付く。また、共に農作業体験に汗を流すことによって、学生同士のコミュニケーションを活発にする。更に、水田や畑に様々な植物や動物とのふれあいを通して大自然の生態系の営みに思いを致す。なお、各班の分担方式により生協の生ゴミの堆肥化作業を毎日実施する。この実践によって優良な有機肥料としての堆肥を生産することが出来ることを体験すると共に、環境マインドの育成を図る。

### (2) 学生が達成すべき目標

- ①茂菅地区の人々に出会ったら、明るく元気に挨拶ができること。
- ②茂菅までの2kmの道中では、交通安全に十分気をつけること。横に広がらないで一列で歩くこと。
- ③畑や水田での農作業に主体的に取り組むことによって、自然と触れあう喜びを体験すること。また、自然体験活動が人間形成にとって重要であることについて、自分の考えを論述することが出来ること。
- ④農作業を学生同士が共同で行うことによって、人と人が触れあうことの喜びを体験すること。また、社会体験活動が人間形成にとって重要であることについて、自分の考えをまとめ論述することが出来る。
- ⑤様々な自然体験や社会体験、生活体験を通して、自分自身や自分の生活について考えると共に、生活科の2年間にわたる年間指導計画を作成することができるようになること。
- ⑥「土づくり」に取り組むことが、良好な自然環境の維持に貢献すると共に、人間の心の中に天地自然の恵みに対する感謝の念を育み、「土づくり」は「人づくり」に通底することを実感することができる。
- ⑦7人で班を編成し、各班ごとの共同作業で仕事をすすめる。毎回、200字原稿に活動の振り返り（リフレクション）を記述すると共に、「気付きの質」を高めるために「調べ学習」を宿題とする。

### (3) 「生活科指導法A」月曜5限（4:20～17:50）の授業内容とその展開

- ①4月5日 ガイダンス
- ②4月12日 雨のため教科書『小学校学習指導要領解説 生活編』（平成20年8月）の読み合わせと穴埋めのプリント問題 NO.1, NO.2
- ③4月19日 堆肥を入れて畝づくりを行い、じゃがいもを植える
- ④4月26日 各班の畝づくり，林部りんご園の場所の案内
- ⑤5月7日 雨のため教科書の読み合わせと穴埋めのプリント問題 NO.3, NO.4
- ⑥5月10日 林部りんご園での摘花作業の手伝い
- ⑦5月17日 各班ごとに夏野菜の種や苗の植え付け作業と周りの草刈り
- ⑧5月24日 雨のため教科書の読み合わせと穴埋めのプリント問題 NO.5, NO.6, NO.7, NO.8
- ⑨5月31日 じゃがいもの芽かき作業，じゃがいもの土寄せ作業．水田の畦塗り
- ⑩6月7日 田植え
- ⑪6月14日 雨のため教室で教科書の読み合わせと穴埋めのプリント問題 NO.9, NO.10, NO.11
- ⑫6月21日 各班の畝の草取り，じゃがいも畑の草取り，田の草取り
- ⑬6月28日 上の畑の草取り，水田の畦の草刈り
- ⑭7月5日 教室で2年間にわたる年間指導計画の作成
- ⑮教室で小論文試験
- ⑯7月26日 じゃがいも掘りと全員への分配，畑終いの作業

### 3. 小論文試験問題

- 問1. 「信大茂菅ふるさと農場」における具体的な活動や体験を通して，自分と身近な人々，社会及び自然とのかかわりの中で，あなたが「気付いた」ことを3点にまとめ，それぞれに「小見出し」を付けて述べなさい．(60点)
- 問2. 問1. の「気付き」の質を高めるために，あなたが取り組んだ「調べ学習」を通して明らかになったことを述べなさい．(20点)
- 問3. 生活科の2年間にわたる年間指導計画の作成に当たって，配慮しなければならないことを5点上げなさい．また，あなたが最も重視したいと考えている「単元」を1つあげ，その概要を述べなさい．(20点)

### 4. 学生の「信大茂菅ふるさと農場」における「気付き」の分類

生活科の内容項目は、次の9つで編成されている。①学校と生活，②家庭と生活，③地域と生活，④公共物や公共施設の利用，⑤季節の変化と生活，⑥自然や物を使った遊び，⑦動植物の飼育・栽培，⑧生活や出来事の交流，⑨自分の成長である。これらの内容については『小学

校学習指導要領』(平成20年3月告示)において、次のようにしく詳しく示されている。

- ① 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かり、楽しく安心して遊びや生活ができるようにするとともに、通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心を持ち、安全な登下校ができるようにする。
- ② 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考え、自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができるようにする。
- ③ 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。
- ④ 公共物や公共施設を利用し、身の回りにはみんなでするものがあることやそれを支えている人々がいることが分かり、それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができるようにする。
- ⑤ 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心を持ち、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできるようにする。
- ⑥ 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊ばせに使う物を工夫してつくり、その面白さや自然の不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しくすることができるようにする。
- ⑦ 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付き、生き物への親しみをもち、大切にすることができるようにする。
- ⑧ 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。
- ⑨ 自分自身の成長を振り返り、多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなど分かり、これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができるようにする。

さて、上記の小論文試験の問1. に記述された学生の「気付き」の小見出しを、この9項目の観点から分類すると、以下の表1～表9のような結果となった。

表1. (1) 学校と生活

体験学習のよさ	農業には昔の人の歴史が詰まっている
野外での活動のハプニングー水を汲みに行つて川に落ち、田植えをしていて尻もちをついたー	農作業をすると、知識を五感を使って吸収できる
リアルに近づくー内面的な知識と外面的な体	人と社会
	人と自然

験の出会い— リンゴの栽培にかかる手間と「信大 YOU 遊世 間」の働き	人数は力
--	------

表2. (2) 家庭と生活

おいしいお米は多大な苦勞からできる リンゴ栽培の大変さ 昔からある物には良さがある リンゴ栽培から学ぶ感謝の心	大変なりんご農家の仕事 リンゴの皮むき 商品化するためには、人間の手を加えること が不可欠
--	--

表3. (3) 地域と生活

社会 地域の人とのふれあい 仲間の協力 友人と作り上げる農場で感じたおだやかさ 農家の方の大変さ、ありがたさ 協力すること 地域の人々との関わり 地域の人との関わり合い 地域の方との関わり リンゴの育成 リンゴ農家の方との関わり リンゴの間引き リンゴの花の輪摘花について リンゴ農園の方の技・知恵の伝わり 初の摘花作業	農業における人々の助け合い—大きな仕事も みんなで分担すれば小さな仕事に— 地域のひとたちとの関わり大切さ 地域の人々との関わり みんなでやると楽しい 地域とのつながり 地域の人々とのかかわりの大切さ りんごへの愛情 リンゴの花をつんで 果樹・リンゴに関する気づき りんご農家へ手伝いに行ったことを通して リンゴの花摘みの難しさ 生活科と社会の人々とのかかわり 農家の人の心優しさ 身近にリンゴを！
--	---

表4. (4) 公共物や公共施設の利用

田んぼの草取り 共同作業は楽しい 農具の上手な取扱いについて 田んぼの草むしりをしていたら 田植え 農具に関する気づき 水田での作業を通して	田植えを通して 田んぼを耕すこと 水田の草取り 世界につながる田植え 畑づくりの大変さ 水田での作業を通して 畑作業を通して
--	--

田んぼに堆肥と水を入れるまで 畑作業！！	田んぼの中に入って草取り 私たちがはつか大根，私たちの田んぼ
-------------------------	-----------------------------------

表5. (5) 季節の変化と生活

季節の流れ	自然の不思議
毎日の天気を気にする	身近な生態系
田植えの発展	天気や自然
身近な自然を愛する心	4月，カエルがまだ冬眠中だった
様々な生き物との出会い	6月，カエルが活発化
リンゴの花摘み	

表6. (6) 自然や物を使った遊び

自然とのふれあい	自然の中で
畑を耕してジャガイモ植え	草刈りにおける草独特の青臭いにおい
多様な命	摘果作業をした果実の中に種の姿があった
自然にすむいろいろな生き物—共生を考える—	自然とのふれあい
田んぼの中で棲息する虫たち	雑草を刈る意味
自然によって生まれる関係，深まる中	雑草は強し
身近な生物	虫がたくさん
生物との出会い	自然とのかかわり
カエル	リンゴの木
田んぼの中のエビ！？	生き物の多様さ
動物や虫の発見	リンゴの手入れ
カエルの声	田んぼの生き物たち
農作物以外の動植物に関する気づき	田んぼの中の生き物
ひえ（稗）	水田での雑草，生き物
田んぼの中に・・・エビ？！	抜きやすい草と抜きにくい草
田んぼにはいろいろな生き物がいるね！	リンゴは摘花をするんだよ！
	草刈りの発見

表7. (7) 動植物の飼育・栽培

苗の植え方	りんごの花摘み
リンゴの花摘み	りんご農園での体験
枯れかけたスイカが，世話によって緑色に農業は大変な仕事である—だが得るものは大き	スイカとじゃがいも
	リンゴの摘花，摘果作業を通して

いー	草を刈ること
ピーマン、ブロッコリーを植えてみて	手で植える
草刈りと草取りについて	りんご
初めての摘花から	リンゴの花
作物をつくる大変さ	植物を育てるために必要なこと
畑の畝	米づくりの厳しさ
食物の栽培	小さい野菜は収穫が早い
米づくり	リンゴづくり
手入れをすること	スイカ
育てるということ	作物を育てることの大変さ
トウモロコシの栽培	リンゴの木の手入れ
作物の育て方	植物を育てることのむずかしさ
たくさんの種類のあるジャガイモ	食物を育てる苦労
作物を育てるまでに大切なこと	作物を育てるときに大切なこと
畑の土づくり	畝からしっかり畑を作ろう
枝豆を植えて	米づくりをして
畑の農作物を育てる難しさ	枝豆を畑で育てる難しさ
畝づくり	草取り・草刈り
米を育てる苦労	トウモロコシの種蒔き
苦労して育てたトウモロコシ	初めての田植え
畝の形は色々あるよ！！	作物を育てる時、より良く成長させるために、
はつか大根の栽培	一つ一つ思いを込めて作業することが大切だ
畑を一から作ることの大変さ	ということ
田植えの大変さ	稲を育てよう！
食物を作るという大変さ	

表8. (8) 生活や出来事の交流

人との関係	人と協力すること（生活科は人との関わりを大切にしている）
身近にある危険	農作物の世話は周りとの協力が不可欠
人との関わりの中で	人との関わりの中で気付いたこと
助け合い	体験することで気付いたこと
班行動	協力することの大切さ
協力と調和	仲間と共に何か一つの物を作ることの喜び
グループでの畑作り	いろいろな人や自然に支えられて生きている
仲間との協力	

表9. (9) 自分の成長

世界とのつながり	成長
植物と人間の成長	ぐんぐん育つ作物たち
恵まれている私たち	自然と自分
見えない苦勞・努力	知識と経験
何かを育てること	友情
感謝	生命
伝統	友情
育てるということ	田んぼ・米から気付いた、友達・世界との関わり
人のために行動することの良さ	自分自身の成長
協力, 人間形成	自分と人, 社会とのかかわり
自然と触れあうと夢中になる—授業後は必ず	自然とのかかわり
清々しい気分になった—	自分が生きてゆくための術を学べたこと
自分自身	手間と時間を惜しまないことの大切さ
気遣いと作物への愛情	
昔の人の偉大さ	

## 5. 考察

学生の感性は大変豊かである。茂菅での一つ一つの具体的な活動や体験を通して実に豊富な感性を働かせて、身近な学生や茂菅地区の農家林部信造氏ご夫妻の仕事ぶりを観察しながら、しっかりと学びや「気付き」を体得している。このような学生時代の体験が核となって、やがて各学校現場で子どもたちと心の通い合う教育実践を展開してくれることが、大いに期待される。この授業を履修した学生は一人残らず、鍬を使い、鎌を研いで、草刈りをし、生ゴミや刈った草を野積みにして堆肥づくりを実践することができる素養を積んだといえよう。

学生の「気付き」は、様々な観点から分類することが可能であるが、本稿においては生活科の内容項目となっている9項目の観点に依拠して分類することにした。本授業においては、基本的に農作業ばかりやっているの、現象的には生活科の内容項目「(7) 動植物の飼育・栽培」しかやっていないように見える。しかし、学生たちの「気付き」を克明に分析すると何と生活科の9つの内容項目の全てにわたっての学びや「気付き」がそこに展開されていることが明らかになった。

## 6. 今後の課題

本稿において、「信大茂菅ふるさと農場」における学生の学びや「気付き」を、生活科の9つの内容項目の観点から分類した。今後は9つの項目ごとに、感性豊かな学生の論考の中から白眉をなすものを精選して紹介するとともに、生活科のキーコンセプトである「気付き」についての思索を深めることが今後の課題である。

## 文献

- 文部科学省（平成 20 年 3 月）『小学校学習指導要領』 pp.72-73
- 文部科学省（平成 20 年 8 月）『小学校学習指導要領 生活編』
- 高浦勝義・佐々井利雄（2009）『平成 20 年学習指導要領対応 生活科の理論』，黎明書房
- 日本農業教育学会編（2009）『学校園の栽培便利帳』，農産漁村文化協会
- 嶋野道弘・寺尾慎一編著（2010）『生活科の授業方法—新しい評価を生かす構想と展開—』，ぎょうせい
- 広島大学附属小学校 内藤博愛（2005）『気付きを深める生活科授業の創造—5 つの「知的活動」で子どもの学びが変わる！—』，明治図書
- 鹿毛雅治・清水一豊編著（平成 21 年）『平成 20 年版小学校新学習指導要領 ポイントと授業づくり 生活』 東洋館出版社
- 食料庁米流通消費対策室企画・編集（平成 2 年）『米と水でつづるにほんの歴史』
- 赤峰勝人（2003）『循環農法』，（株）なずなジャパン
- 志村昌之・土井進（2002） 農作業における子どもの「体験」と「学び」を結ぶ支援—「信大 YOU 遊プラザ」における学生の実践— 信州大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 No.3 pp.97-106
- 土井進（2005） 体験力を育てる農業学習—「信大茂菅ふるさと農場」における実践—「教育展望」通巻 557 号 pp.24-31

（2010 年 7 月 30 日 受付）